

多文化フィールドスタディー(3・4 年次) — 中国での調査を終えて —

【共通調査】

中国社会において AI が果たす役割

<研修期間>

2019 年 8 月 4 日～8 月 25 日

<研修場所>

中国、北京

<調査方法>

北京師範大学内および、その周辺でのアンケート調査
(北京師範大学生ならびに百度本社近くの社会人 197 名)



<新たな気付き～学生からの体験談より>

事前に5か月間中国経済に果たす AI の役割を勉強し調査に臨みました。現地調査ではアンケート項目の整合性やデータの偏りなどいくつかの課題が残ったものの、AI の発展が著しい社会に身を置く中国人の AI に対するリアルタイムな意見を知ることが出来ました。実際に現地で調査をしてみるとアンケートに快く応じてくれる方が多く、中国の人々に対する印象が変化したことも調査の成果です。

【個別調査】

学生の報告書から(多文化コミュニケーション学科3年生)

「インターネット規制における意見、SNS やアプリに対する意識調査」

青山 加代子(Aoyama Kayoko)



現地での調査でも、ネットによるアンケート調査でも拙い中国語ながら親身に話を聞いてくださいました。自分が想定していた仮説(ネット規制においてそこまで意見はない)とは違う意見がたくさん出たのでより中国のネット規制やインターネット事情について興味を持ちました。

「中国の日用雑貨店とアパレル店の接客」

池田 さくら(Ikeda Sakura)



私は初めて海外でアンケート調査を行ったので最初は不安の気持ちのほうが大きくありました。ただ現地の方々は私が声をかけると快くアンケートを引き受け文法の間違いなども指摘してくれたり、とても親切な方が多いと感じました。この経験は私にとってとても貴重な経験です。

「中国における信用スコア(芝麻信用)の意識調査」

今村 祐太(Imamura Yuta)

実際に調査してみることでインターネット上にある情報と違い、信用スコアを意識して生活している人は少なかったことがわかった。また、学生と社会人で意見が分かれていることがありとても興味深い調査となった。



「訪中外国人に対する中国人の考え」

木村 咲也香(Kimura Sayaka)



初めは声をかける事に不安がありましたが、多くの方がアンケートに応じてくれ安心しました。調査結果は、訪中外国人の増加に賛成の方が多い一方で、中国人と訪中外国人が持つ考えに相違点がある事が分かりました。

「日本企業の製品と中国人の繋がり」

長谷川 真優(Hasegawa Mayu)

積極的に中国人に話しかけることで快く応じてくれた。日本企業の製品を生活の中で使用している人と、関心のある人が多いという結果が出た。アンケート調査を通じて、自然とコミュニケーションをとることができた。



「中国人大学生のアウトバウンド状況について」

藤原 姫香(Fujiwara Himeka)



大学内にもかかわらず一般の方が多く学生を探すのに苦労しました。現地の学生は協力してくれる人が多く文章の間違いなど確認してくれて親切でした。

調査では、娯楽のために海外旅行に行く人が多いと分かりました。

「中国食品の安全性に対する意識調査」

八木橋 沙耶(Yagihashi Saya)



初めの頃は怖がってしまい積極的に調査を進められませんでした。だんだんと怖がらず中国語で話しかけに行くことができるようになり、積極性やメンタル面で成長を感じました。実際の中国の方の食に対する不安面や行動を知ることができました。

「米中貿易戦争」

李 泳俊(I Yonjun)

中国人も米中貿易戦争には興味を持っているものの、現時点で米中貿易戦争がどのように進んでいるか、詳しく知っている人が少なかったです。しかし、中には中国の社会問題を指摘し、その問題を解決しない限り米中貿易戦争で中国が勝つことは無理だろうと言う人もいました。



「996 問題:中国 IT 業界における長時間労働」

渡邊 学人(Watanabe Gakuto)



多くの中国人は 996 制度に反対であったが、IT 業界で働いている人は賛成している人が多かった。996 制度が取り入れられるのは業界によって大きく差が出るということが分かった。